

# ほとけの 混和会だより

平成二十四年七月  
東光院  
仏の混和会  
第91号



念ずれば花ひらく

念ずれば 花開く  
苦しむとき  
母がいつも口にしていた  
このことばを  
わたしはいつのころからか  
となえるようになった  
そうしてそのたび  
私の花が 不思議と  
ひとつひとつ  
ひらいていった  
(坂村真民作)

お釈迦様は、人生は「苦」である。世の中の様相、全て「苦」である。この様々な苦しみはどうしておこるのか、などと久しく思索されたあげく、苦しみの起こる原因も苦しみを減する方法も、明らかに悟られて、次のように説き示して下さいました。

釈尊の説かれた、苦しみを減らし、また苦しみを招かない方法を「八正道」と言われております。

- 一、「正見」自己中心的な見方や偏見を持たない。
- 二、「正思」自己本位に偏らず、真理に照らし物事を考える。
- 三、「正語」恒に真理に合った正しい言葉を使う。
- 四、「正行」仏の戒めになつた正しい行いをする。
- 五、「正命」衣食住その他の生活財を正しく求める。
- 六、「正精進」心理に照らされた道、己自身に与えられた使命に正しく励む。
- 七、「正念」仏と同じような正しい心を持ち、自己本位による分別をせず、心を恒に真理の方向へ向けること。
- 八、「正定」何事にもとらわれず、こだわらず、執着もしない、あるがままの静かな心を保つ。

ねーねー、お坊さん、  
ところで、今日のタイトル  
「念ずれば花ひらく」って  
どういうことなの？

あ、これね、夏だから己の心の中に、汚れの無い、清らかな蓮の華を思い描いて見たんじやよ、そうしたら坂村真民さんの歌が思い出されたと言うわけなんじや、

えー、たんなる思いつきなのもこの歌に対する、なにかお坊さんの思いがあるんじよ。

そうじやな、世間の苦しみや争い等、様々な迷いを見ていると常日頃から正しい思いの中に、正しく事を念じると言う事は、とても大切なことなんだと、最近痛切に感じられるんじやよ。

釈尊は、全ての人がみな幸せに成るよう、道を説いて下さいました。その幸せに成る方法として、上記の如く八正道を説き示して下さいました。

苦しみや悲しみ争い等、様々な迷いの要因は、私達の誤った物の見方や受け止め方、更に誤った思いや、誤った物を念じる心などから発生します。

物事は全て、己の思い「一念」から、事が進んで行きます。

常日頃から、正しく物を思い、正しく事を念じて、正しく事を行って行けば、幸せの道が自然に開かれて行きます。

では、どのように正しい思いを抱き、正しく事を念じれば良いかと言うと。それは、良い地位を得て上席を得たいとか、宝くじが当たりますようにと言う思い、実はこれは正しい思いとは言えません。

だれかが上席を得れば、だれかが落ち無ければ成りません、裏を返せば己の欲望を満たす思いは、他の不幸を念ずる事に成ってしまいます。

そこで、己の欲望の赴くままに事を念じる自我の心を減して、苦しみも悲しみも全て御仏の導きと信じ、御仏の導きに身をゆだね、現世も来世も共に浄土と成るよう、他の幸を念じる慈愛の念から、自然に道は開かれて行きます。

正しい思いの中に、共に慈愛の念を抱いて参りたいと存じます。

## お念仏



「南無阿弥陀仏」  
「南無釈迦牟尼仏」  
「南無妙法蓮華経」  
なむあみだぶつ  
なむしやくあんにぶつ  
なむみやうほうれんげきやう

右の如く、私達は仏様を念じる時、南無何々とお唱えします。この南無とはインドの言葉で「お任せします」と言う意味です。この世は夢の如く幻の如く儚く、何事も己の思うようには成りません。己の命ですら、己の思うようには成りません。思うようには成らないことを、思うようにしようとすると迷いと成り苦しみと成ってしまいます。

このように成れば幸せだろうなとか、こうあって欲しいなどと条件を付けて念じた時、その願いが叶わなかったら不幸に成ってしまいます。そこで条件を一切付けずに「南無」と全てを仏様にお任せして見るのです。

苦しみが亡くなって救われるのでは無く、苦しみのお陰で道も開かれ、眞の自己を自覚する事が出来て、己の花もひとつひとつ開いて救われるのです。すべて、仏様の導きと無条件で仏様にお任せする心が抱けたとき、身も心も晴れ晴れと安心に抱かれます。

## 盂蘭盆法要のご案内

8月16日（木曜）午前11時より

身を慎み、亡き人の冥福を祈り、また他の幸を願い、他を思いやる。己の徳を仏様に献じて見ましよう。皆様のお参り、お待ち申し上げます。

電話 0476-46-2471  
FAX 0476-46-2545

## 施餓鬼法要のご案内

8月22日（水曜）午後2時より

己の真心を、仏様にお供えし感謝の念を抱き善因の功德を巡らす事によって、この世も来世も御浄土と成ります。

本年度新盆の方は、この日にお参り下さい。  
その他のお方は 16日、22日、都合の良い日にお参り下さい。

## お盆参りの ご案内

様宅には 日 曜日  
午前、午後 時 分頃 お参りさせていただきます。

もし不都合が御座いましたなら、早めに連絡頂けますようお願い申し上げます。

お問い合わせは、東光院までお願いします。  
電話 0476-46-2471  
FAX 0476-46-2545